

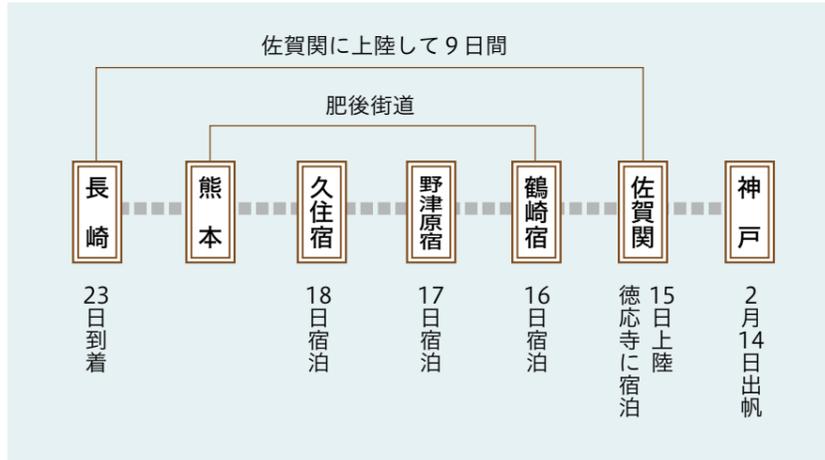
# 歴史深き肥後街道を歩く



今年で明治維新から150年。誰もが知る幕末の志士・勝海舟と坂本龍馬が、幕府の命により長崎出張に赴いた際、佐賀関に上陸し、肥後街道を抜ける道を通ったことはあまり知られていない。

今回の特集は、参勤交代のために整備された「肥後街道」や、肥後藩の要地として栄えた鶴崎の様子などを振り返り、当時の大分市を紹介する。

## 市内を横断した幕末の志士たち



勝海舟と坂本龍馬が歩んだ長崎までの道のり

1863年、尊王攘夷運動の中心であった長州藩が関門海峡を通る外国船を砲撃。英・仏・米・蘭の連合艦隊が報復攻撃を企てていた。幕府の要人だった勝海舟は、幕府より連合艦隊による砲撃を中止させる命を受け、1864年、海軍塾の塾頭・坂本龍馬を連れ立ち神戸を船で出帆。佐賀関に上陸し、陸路で肥後街道を通り熊本を経由し、長崎のオランダ総領事館へ交渉に向かった。

海舟・龍馬が通った肥後街道とは、江戸時代に肥後藩主・加藤清正によって開かれ、肥後藩の参勤交代に用いられた街道で、肥後国熊本と豊後国鶴崎を結ぶ、全長約124キロメートルの道である。

海舟、龍馬ら一行は、2月14日に神戸出帆後、翌日、「第二長崎丸」という船で佐賀関に上陸し、海を望む高台の寺「徳応寺」に宿泊した。

幕末から明治中期までの激動の時代を海舟の言葉で綴った「海舟日記」には、佐賀関において「15日 5時 豊前、佐賀関、着船。即ち徳応寺へ止宿す。」と記されている(後日、豊前を豊後に改めた)。

佐賀関の翌日、海舟と龍馬は鶴崎に一泊し、17日に野津原、18日は久住で宿泊し、肥後街道を抜け熊本から長崎へ……。



日本人物誌 (徳応寺所蔵)

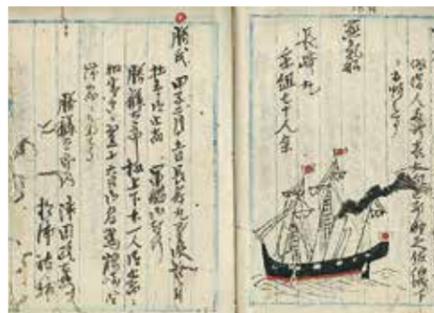
1864年2月15日に勝海舟が「第二長崎丸」にて上陸した際の記述とスケッチ。当時の住職・東光龍潭は絵を描くことを得意とし、寺を訪れた人々との交流を絵日記として残していた。長崎からの帰りとみられる同年4月10日に宿泊した際の一行の名簿の中には、坂本龍馬の名前が。当時、龍馬は暗殺を警戒していたため偽名を使っており、実名が記録されているのはとても珍しい。1993年に発見された、貴重な資料である。



勝海舟  
(名古屋市博物館所蔵)



坂本龍馬  
(長崎歴史文化博物館所蔵)



文化財課 ☎537-5639